

OWNER'S OPERATION MANUAL

イージーローダー取扱い説明書

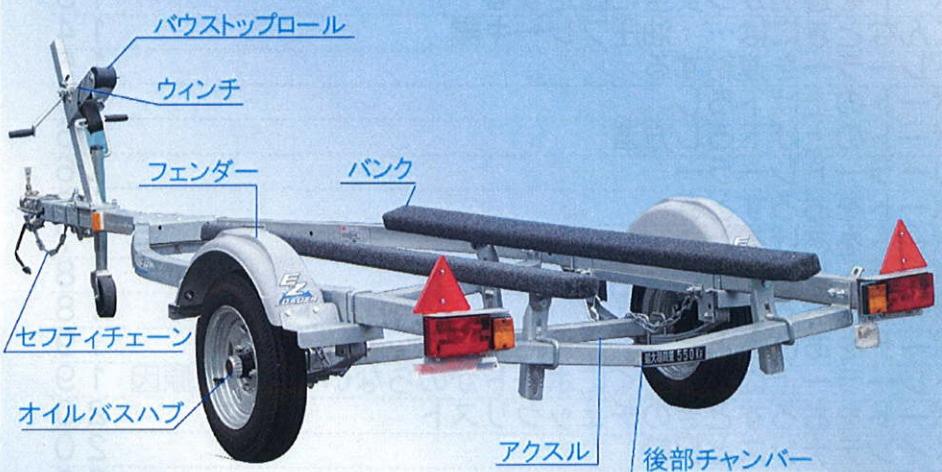
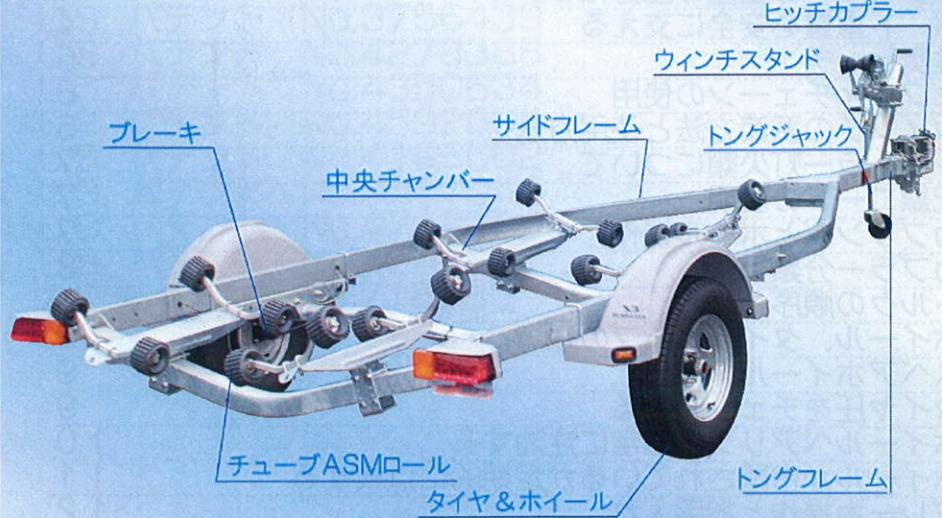


2014年1月1日 改訂

EZ ローダーをご愛用いただくお客様へ

- ◆ この EZ ガイドは常にお客様のトレーラーをけん引する自動車のサイドポケットに入れておいてください。
- ◆ トレーラーを売却される際には必ずこの EZ ガイドを添えてください。
- ◆ この説明書を必ずお読みになってからトレーラーをご愛用ください。

EZ ローダー各部名称



Trailer Data

トレーラーデータ

お客様へ***

おぼえのため必ずご記入してください。

ご購入日	20 年 月 日
EZモデル名	
トレーラー車体 番 号	1ZE
ご購入店名	
住 所	
電 話	

トレーラーを売却する際には必ずこの取扱い説明書を添えてください。

はじめに

このたびはEZローダーボートトレーラーをお買い上げいただきまして、誠にありがとうございます。EZローダートレーラーはすべて米国BIA認可、TMA認可、及びNMMA認可を受けており、品質の良いボートトレーラーをつくる業界のリーダーとして、60年の実績を誇っております。(株)ラムアソシエーツは日本の正規輸入代理店として、EZローダーボートトレーラー社と協力して日本の法規にあわせたものを1983年より輸入してきました。以来、国内におきましても信頼のおけるトレーラーとしてご愛用いただいています。

EZトレーラーは、ボートの上げ下ろし作業を少しでも楽になるようにデザインされていますが、本書ではトレーラーの正しい使用方法を説明しています。お持ちのトレーラーモデルに一番適した使用方法、お手入れの方法をご理解いただくためにも、トレーラーをご使用になる前に必ず取扱い説明書をお読みください。EZトレーラーは耐久性に優れていますが普段のお手入れは不可欠です。基本手順をふんでお手入れをしていただき、末永くご愛用ください。

ボルトとナットをダブルチェックする

EZローダートレーラーはセルフロックの振動防止ナットを使用していますが、オーナー様の責任においてボルト・ナットがしっかりと締められているか、事故防止のため常に確認するようにしてください。購入後初めての使用時はもちろん、日常的に点検してください。

積載重量を超過しないこと

総積載重量（トレーラー自重、ボート自重、エンジン、燃料、バッテリー、法定備品、ギアの合計重量）が総車両重量を超えてはいけません。燃料、ギア、エンジン、法定備品等を備えた状態での重量がわからないときには、トレーラーにボートをのせて実測してください。トレーラーの総車両重量はグレーのMFDステッカーに記載されています。最大積載重量は、トレーラーに添付されているMFDステッカー内の総荷重（G.V.W.R）に表示されています。国内最大積載重量は日本の保安基準に基づいて設定されています。



WARNING

日本国内での公道におけるトレーラーのけん引には車検取得が法律で義務付けられており、けん引能力のない自動車でのトレーラーのけん引はけん引車故障の原因となります。

トレーラーの重量の分配について

積載重量がトレーラーに均等に重量分配されているかしっかりと確認してください。とても重要なことです。

重量分配は適切であるか、バンク又はローラーに均等にボートの重量がかけられているか、確認します。重量分配がうまくなされていないと横すべりの原因となり、トレーラーとけん引装置に過度の負担がかかってしまいます。バンクトレーラーの場合、バンクの高さは左右、同じ高さに組み立てられているか、確認します。ローラートレーラーの場合、各ローラーに均等にボートの重量がかかっているか確認します。トレーラーが水平面に対して平行であるとき、車両総重量の5%～10%はトレーラー連結ボールで支えられなくてはなりません。例えば、ボート、エンジン、トレーラーの車両総重量が680kgとするとき、カプラーにかかる重量は34kg以上68kg以下でなくてはいけません。ヒッチメンバーの最大値以上でもいけません。軽量のボートの場合は、体重計などでカプラーにかかる重量を計ってください。標準の重量分配の範囲内でない場合、ボート内にギアを動かしてみます。それでも問題が解決しない様な場合はトレーラーお買い求め店に連絡してください。



WARNING

左右前後の荷重を違えるとトレーラーの一部分に過度の重量がかかり、トレーラー及び積載物の破損の原因となることがあります。絶対にしないこと。

ボート重量を安全に支える

重量分配はローラートレーラーとバンクトレーラーでは異なります。

ローラートレーラーをご利用の方

ボートの重量が自動調整式のローラー上に均等に載っているか確認します。

自動調整式ローラーシステムでは、イージーローダー社のパテント登録商品です。

必要に応じてトング、キールローラー、サイドローラーの調節を行ってください。ポートのトランサムは最後部のローラーの上に来るようになります。ローラーの調節に問題等が生じた場合は、速やかにトレーラーお買い求め店に連絡してください。

バンクトレーラーをご利用の方

ポートの重量が長いバンクに均等に配分されているか確認します。ポートが斜めになっていたらバンクを調節して、左右均等の高さにします。トランサムもバンク最後部で左右均等の高さになるようにします。

湾曲の原因になるため、トレーラーのバウサポート、センターサポートが使用されている場合、ポートのハリの一部に大きな圧力をかけてはいけません。

ポートのバウンドを防ぐため、トレーラーにしっかり縛って固定します。



caution

トレーラーの一部に荷重をかけすぎないこと。破損の原因となります。

推奨ヒッチ

トレーラーの車両総重量はヒッチ（けん引装置）の最大積載重量を超えてはいけません。

ヒッチメンバー（けん引装置）を購入する前に、トレーラーお買い求め店に相談するのがよいでしょう。けん引車のメーカー推奨内容もあわせて検討してください。ご自分のヒッチメンバーの取り付けはおすすめできません。



caution

ポールの高さはトレーラーが水平面上に置かれているときのカプラーの一番上から地面までの高さを示しています。平均のポールの高さは通常 35 cm～43 cmですが、この高さは各トレーラーモデルやタイヤサイズにより違います。

セフティチェーンの使用

トレーラー前部下でセフティチェーンを交差させて接続するように法律で義務付けられています。けん引前に必ずカプラーとハウストップにセフティチェーンを据え付けること

トレーラーヒッチにはチェーンを据え付ける場所がついています。トレーラーカプラーがヒッチボールから外れたときに、トレーラートングが道路にたたき付けられないようになります。



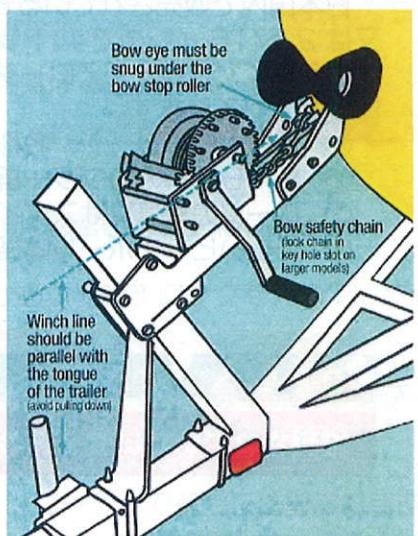
WARNING

- チェーン同士をつながないこと。
- EZローダー純正交換部品のチェーンと、フックを含む公式認定タイプに交換するとき以外は、オリジナルのチェーンを取り外したり、いじったりしないこと。
- けん引前に必ずセフティチェーンをヒッチメンバーに取り付けること。

ウィンチの調節方法と使用方法

ウィンチの高さを調節してよりよい状態に調節することができます。調節方法は以下の通りです。

- ① ウィンチの高さを調節し、ボートのバウアイ、ハウストップロール、バウアイのすぐ上のVブロックと同じ高さにします。
- ② ボートはトレーラー上にまっすぐ引っ張り、ウィンチスタンド上のハウストップにしっかりとひきよせます。
 - 手動ウィンチのお手入れはとても簡単です。
 - 常にきれいにしておくこと。
 - 注油しておくこと。
 - 頻繁にギアにヘビーグリスを差すこと。
 - ウィンチストラップがほぐれたり、すり切れたりしてしまうのでとがったものなどで擦らないこと。
 - ウィンチストラップのすり切れ等に気が付いたら、直ちに部品の交換をしてください。



トレーラーの灯火類について

走行前に法定灯火類が正しく操作するか必ずチェックすること

月に一回、配線コードの点検を行うようにしてください。サビや不良ワイヤーを見つける良い機会です。

配線コード説明

緑	右方向指示器、非常点滅表示燈
黄	左方向指示器、非常点滅表示燈
茶	尾灯、番号灯、車幅灯
赤	制動灯
黒	後退灯
白	アース

白のアースコードがトレーラーフレームに接続されているようにします。摩耗や破損した部品は速やかに交換してください。防水グリス、ワイヤーハーネスのプラグ接触部に防水グリスをつけて、サビや腐食から守るようにします。

車側の配線コードは、自動車のディーラーさん等の専門家に取り付けを依頼するようにしてください。

日本仕様のEZローダーの配線コード説明は表の通りです。配線は配線図面を参照してください。進水前には必ず毎回配線コードの接続部は離すこと。

カプリングとボール操作

日本国内で販売されているEZトレーラーのヒッチカプラーは2インチ又は2-5/16インチです。トレーラーカプラーサイズに合ったヒッチボールをご使用ください。EZローダートレーラーのカプラーにはすべて下記の刻印がなされています。

- ① メーカーのコード、名称、又はトレードマーク
- ② SAE基準のカプラー指定とトレーラーの総重量
- ③ パーツの番号又はスタイル・モデル番号
- ④ 正しいヒッチボール直径



WARNING

推奨されていないサイズのヒッチボールを使用しないこと。

以下の表を参照してヒッチボールとヒッチ比率にあっているか、又はトレーラーのトレーラー総重量を超えていないか確認してください。

カプラー分類			
クラス	カプラー 総重量比率	ヒッチボール	
クラス2	1588kg	2 インチ	3/4 インチ軸
クラス3	2268kg	2 インチ	1 インチ軸
クラス4	3402kg	2-5/16 インチ	1 インチ軸

*通常使用されるのはクラス2又はクラス3です。

カプラー下のナットを調節すると締め金がしっかりと閉じられ、ボルトにきつくフィットします。油圧ブレーキアクチュエーターは通常調整の必要はありません。締め金部分は常にきれいにして、軽く注油され

ているようにします。締め金部分又はカプラーが変形したら、新しいカプラーに交換するまでトレーラーは使用しないこと。

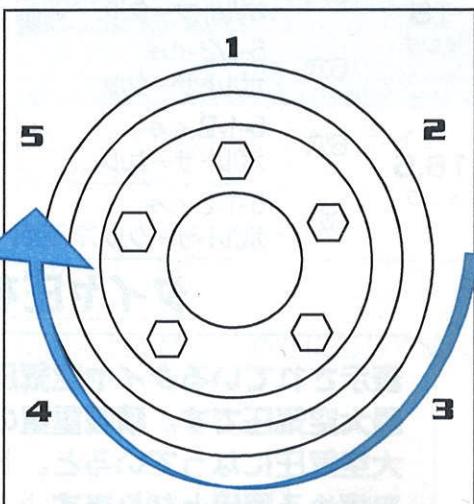
トルクの順序



走行前ごとにラグボルトがきつく締められているか確認する。

ボルトを紛失したら速やかに60°円すい型の亜鉛メッキラグボルトを使用します。トルクの順序は以下の通りです。（図参照）

- ① 0.17~0.3kg/cmで右図の1.3.5.2.4の順序で締めます。
- ② 1.3~1.4kg/cmからラグボルトに表示されているフットポンドで、締め直します。
- ③ 以後、80km走行ごと定期的に締め直します。ラグボルトは常に清潔に乾かし、注油はしないこと。



ホイール、タイヤ、ハブの注意



WARNING

安全靴を履くこと。フェンダー下のきつい場所に手を入れると突然挟まれることがあります。タイヤ交換の際には軍手をはめること。



caution

オリジナルタイヤとホイールボルト以外使用しないこと

スペアホイール

10 インチ	5穴	4-1/2インチ ボルトサークル
12 インチ	5穴	4-1/2インチ ボルトサークル
13 インチ	5穴	4-1/2インチ ボルトサークル
14 インチ	5穴	4-1/2インチ ボルトサークル
15 インチ	5穴	4-1/2インチ ボルトサークル
	6穴	5-1/2インチ ボルトサークル
16.5 インチ	6穴	5-1/2インチ ボルトサークル
	8穴	6-1/2インチ ボルトサークル

トレーラーは水にさらされる機会や手荒に扱われる機会がとても多いので、自動車への配慮よりももっとホイールやホイール関係の部品への配慮が必要です。

トレーラータイヤは自動車と同様に破損や溝がすり減ってきたら適宜交換してください。

スペアタイヤに関するお問い合わせはトレーラーお買い求め店にお願いします。タイヤ交換用のジャッキを携帯するようにしてください。タイヤ交換をするときはスプリング前部のフレーム下にジャッキを置いてください。

タイヤ圧をチェックする

表示されているタイヤ空気圧は



caution

最大空気圧です。積載重量の少ないとタイヤ空気圧が最大空気圧になっていると、トレーラーがバウンドして積載物を痛める原因となります

タイヤの空気圧一覧表		
タイヤサイズ	PSI (※1)	KG/mm ²
480×12B	60	4.1
530×12C	80	5.5
16.5×6.5×8B	45	3.1
20.5×8×10B	35	2.4
20.5×8×10D	70	5.0
ST175/80R 13B	35	2.4
ST175/80R 13C	50	3.4
ST205/75R 14C	50	3.4
ST215/75R 14C	50	3.4

※1 PSI 値はタイヤ本体に表示されています。

ホイールベアリングは常に注油する

ベアリングを点検するときはタイヤ交換の順序に従い、ホイールをジャッキで上げます。

- ① ホイールをあげて路面から離します。
- ② タイヤの外側の縁に手を添えホイールを揺すぶり、タイヤのぐらつきがないことを確認します。
- ③ ホイールをまわしてノイズや回り具合を点検します。
- ④ ブレーキ付きのトレーラーはブレーキシューを引っ張っていないことを確認します。ノイズが起こらず、ホイールがスムースに回ればベアリングの状態は良好です。きしむ音が聞こえる場合は、トレーラーお買い求め店に問い合わせをしてください。
- ⑤ トレーラー使用後にはベアリングハブに丁寧にハンドガンでグリスを差します。

※ハブが冷たいときにグリスを差さないでください。密閉シールやブレーキシューの破損原因になります。

※ベアリングプロテクターを正しく作動させるため、グリスはハブ一杯に入れてください。

※こぼれないように充分注意してください。

※防水マリントレーラーグリスを使用してください。

ベアリングプロテクターを外さなければならない場合、ベアリングプロテクターに対して木片を寝かせ、プラスティックハンマーでたたきます。木片を反対側に置き直してもう一度たたきます。プロテクターがハブから外れるまでこの作業を繰り返します。

ベアリングプロテクターを取り付けるには、ベアリングプロテクターがハブ内部にきつくフィットするように設計されているため、ハンマーで木片をたたく前にハブが一直線上に並んでいるか確認してください。

ホイールベアリングは工場でトルク締めされてあります。ベアリング調節の点検は上記説明に従ってください。それ以外の調節が必要なときには以下の順序に従っていただぐか、トレーラーお買い求め店に依頼してください。

- ① トレーラーの片側をジャッキあげて、ベアリングプロテクター、コッターピン、スピンドルナット保持具を取り外します。
- ② スピンドルナットは手締め程度に締めます。ナットを締めて定位置におさまったら、ホイールはハブやスピンドルの横からの動きなしに簡単に回せるはずです。
- ③ ナット保持具はスピンドルナットの上で交換します。ナットを締めたり緩めたりすることなくコッターピンが入るようにすること。
- ④ 新しいコッターピンを入れて横の動きを再点検します。
- ⑤ コッターピンの後部を割いて定位置に固定し、ベアリングプロテクターを交換します。
- ⑥ ピストンが 3 mm 程外側に動くか側面の通気穴からグリスがはみ出るまで、ベアリングプロテクターにグリスを補充します。

EZ17-20 2200（最大積載量 1000kg）以上の大きいトレーラーには、" SURE-LUBE" システムを装備しており、多少注油順序が異なります。このシステムはホイールの後ろから余分なグリスが出るまでハンドグリスガンで注意深く頻繁に補充することにより、ハブ内部のベアリングの空洞にグリスが充分に維持されることになります。

ホイールが密閉されているか定期的に点検する

密閉部のまわりには通常油膜が見られます。多少の漏れが生じていても支障はありません。あまり漏れがひどくなったら、トレーラーお買い求め店にて部品の交換を行ってください。

ハブに一定量以上のグリスを補充すると密閉部から漏れが生じた場合は直ちに点検してください。アクスルブレーキのグリス漏れは誤操作などの原因となり、非常に危険です。シーズン終了後には、ホイールベアリングの点検とグリス密閉シールの交換をしてください。



WARNING

ほとんどのEZローダートレーラーにはペアリングプロテクターが装備されています。グリス補充時は特に注意してください。ペアリングプロテクターにグリスを入れすぎると密閉シールがはがれる原因となります。

ブレーキ操作とお手入れ

ブレーキは濡らさないほうがより長持ちします。ブレーキを水に浸してしまったら、ブレーキを作動させる前にしばらくトレーラーを動かします。『自然乾燥』よりも早く乾きます。

走行前とホイール注油後にブレーキ点検を行ってください。ひだんからブレーキライニングの点検を心がけ、必要に応じてブレーキ調節や破損・摩耗した部品の交換を行うようにしてください。

シーズン終了後にブレーキドラムを外してブレーキ部品の点検を行うようにしてください。全部品が掃除され、乾燥していればさびの心配はいりません。

必要に応じて、トレーラーお買い求め店にてブレーキの解体、ブレーキシュー、バッキングプレート、その他パーツの掃除を行ってください。バッキングプレートのブレーキシューとの接点、マグネットピポット、アンカー、調節部品に軽く注油します。注油後、さび処理を行うとより効果的です。その後、ドラムとホイール部品を組み立てます。

注油ブレーキでは下り坂でのエンジンブレーキの使用はしないでください。下り坂ではトレーラーブレーキが連続して作動してしまい、オーバーヒートやブレーキ故障の原因となります。

頂上に近づいたらスピードを落とし、けん引車両のペダルブレーキのみを使用するようにします。ブレーキを冷やす時間をとりながら、使用するよう心がけてください。

ブレーキ調節

お客様がお持ちのトレーラーには

自動調節式ブレーキは装備されておりません。正しく機能させるためにも定期的な調整と日頃からの点検が不可欠です。



!caution

トレーラーのブレーキ調整はトレーラーお買い求め店にご依頼いただくか、以下の手順の概略に従ってください。ブレーキを調整する際には

- ① ハブとドラムを前方に回します。
- ② 手でドラムが回せなくなるまで締めます。
- ③ ゴム木づちを使ってドラムとバックングプレートをたたきます。
●この操作によりドラムが動いてしまったら、もう一度手でドラムが回せなくなるまできつく締め直してください。
- ④ ドラムのつめ 7 目分、調節を戻して調整します。

ボートを適切かつ安全に固定する

ボートがトレーラーサポートに固定されているか確認します。事故防止の為とても重要です。

船尾から前と下の両方向にボートの認証を受けているタイダウンでしっかりと縛り付けます。トレーラー後部のマウントポイントを使用します。バウストップ・セフティチェーンは、ワインチストラップだけではボートは安全に固定されません。ワインチストラップがほぐれていたり、切れたりさけているなどのダメージを受けているようなら、交換してください。

ワインチストラップの縛り具合がきつくトレーラーに固定されている場合は、バンクやローラーのセッティング具合を点検してください。

こんなときには… 油圧ブレーキ編

状 態		処 置
ブ レ ー キ ノ イ ズ	グリスでコートされているライニング、ブレーキシューのノイズ	グリス漏れの箇所を探しライニング、ドラムの接点を正しい位置に直して擦る
	ボルトの緩み、ドラムが外れたことによる振動	ハブボルトをきつく締め直す ドラムの修理を行うか、交換する
	ベアリング調節の緩み、ベアリングが荒いことによる振動	ベアリングを調節するか交換する
	すり切れ、ひび割れドラムやリミットを超えての機械かけ	ドラムの交換をする
アクチュエーターの過度の走行	油圧ラインの漏れ	欠陥ラインの交換をする
	マスター缸のリザーバー液が少ない	マスター缸と抽気システムを補充する
	油圧ラインに空気が入った	マスター缸と抽気システムを補充する
	ホイールシリンダの漏れ	修理するか交換する
システムの圧力強化	マスター缸の主要カップの漏れ・蒸気口が閉まっているか、ごみでふさがっている	問題箇所を点検し、必要に応じて調節、修理交換を行う
	ホースに欠陥がある	
	主要チェックバルブが油圧システムに一杯でない	
	ライニングとドラムのゆとりを取り過ぎる	ブレーキの調節をするか、ライニングの交換を行う
シ ス テ ム の 圧 力 強 化	液が汚れていてキャップが膨張した	液を捨てて液の交換を行う キャップ交換をする
	マスター缸のピストンが止まらなくなり蒸気口を塞いでしまっている	全部品を点検し、必要に応じて調節、修理を行う
	ホースシリンダー蒸気口が汚れで閉じられているか、制限されている。リターンスプリングが弱い	オーバーホールするか、交換する

トレーラーを連結する

けん引する自動車にトレーラーを連結する前に、ワインチスタンドに貼られている黄色のコーションステッカーの注意事項を今一度読み返してください。コーションステッカーを紛失したら、トレーラーお買い求め店から新しいステッカーを必ずもらってください。

- ① けん引する自動車をトレーラーにできるだけ近づけて、ヒッチボールとカブラーが一直線上になっているか確認します。必要に応じてヒッチボールとカブラーが接触するまでけん引車を移動させます。
- ② カブラーロック装置が解除されているか確認してから、トレーラー最前部を持ち上げてヒッチボールの上にカブラーをのせます。
- ③ トングを低くしてカブラーをヒッチボールにしっかりと収めます。カブラーの内側のボール締め金がボールの下にあり、ボールの上にのっていないことを確認します。
- ④ カブラーがヒッチボールに収まつたらロックしてトングをあげます。緩むようであればロック解除してやり直してください。カブラーの内側にあるヒッチボールの締め金はヒッチボールの下にあります。
- ⑤ トングジャックを一番上まで巻き上げ横定位置に固定します。
- ⑥ セフティチェーンを据え付けます。
- ⑦ けん引する自動車にトレーラー側ワイヤーハーネスを接続します。
ライト類が正しく操作しているか、確認を忘れずに行ってください。
その他、走行前にトレーラー各部の点検を行ってから出かけましょう。

コーションステッカー

CAUTION

各走行前ごとに
安全の為必ず
チェックして
ください。

1. 最大積載重量の厳守。
2. 積載サイズの厳守。
3. 積載物の前後をトレーラーに確実に固定する事。
(ワインチラインのみによる固定では不足です。)
4. ホイールボルト及びスプリングナットの締め付け確認。
5. 灯火類は正常作動しているか。
6. カブラーとトレーラーポールは正確に噛み合わせる事。
(カブラーロックホールにはシェアピン又はヒッチロックをする事。)
7. 安全チェーンは交差接続する事。
8. サイドブレーキ(オプション)を外す事。
9. トングジャック(オプション)を折り畳む事。
10. 披牽引車総重量を充分に牽引出来る強度のある連結装置である事。

EZ LOADER
BOAT TRAILERS

MADDO'S
AUTO CLUB
TEL 0282-25-0664

ボートの上げ下ろし

坂を使ってのボートとトレーラーの扱いには経験、技術、根気が必要です。下記事項に従えば、少しはボートの上げ下ろしが楽にできるのではないか。

- ① 傾斜路に行く前にボートをおろせる状態にしておきます。
- ② ほかの車両の邪魔にならない場所で止まり、ロープを解きエンジンやドライブユニットをチルトアップします。
- ③ トランサム・ドレンインプラグの交換等の作業を行います。
- ④ けん引車両とトレーラーのワイヤーハーネスを外します。



ワインチストラップとセフティチェーンはボートをおろす準備が完了するまで、絶対に外さないこと

EZローダー社では、バンクトレーラーと、ローラートレーラーの2種類を扱っております。タイプによってボートの上げ下ろし方法が多少異なりますので、ご注意ください。

ボートの上げ下ろし方法

* ローラートレーラー *

EZローダー製ローラートレーラーはボートの上げ下ろしが非常に簡単です。

ボートをおろすとき

- ①ボートをおろすときは水面まで傾斜路を下ります。
- 傾斜路がない場合は地面の堅い所や坂道を使います。
- ぬれて柔らかくなっている砂には充分注意すること。
- できるだけホイールベアリングとブレーキは水に浸さないようにする。
- 海水では特に注意すること。
- ②ボートが水面に浮いてからの取り扱い用に係留ロープを結びます。
- ③バウストップ・セフティチェーンを外します。
- ④ワインチハンドルをしっかりと持ってからワインチロックを外して、ワインチストラップを解いていきます。
- ワインチストラップはゆっくりと充分注意しながら、解いていきます。
- 平均的な角度の傾斜路なら、トレーラーのローラーがうまくボートを誘導してくれますが、ボートがすぐに動かないようなら15cm程ワインチストラップを延ばしワインチをロックしてからボートを押します。ワインチロックを外し、もう一度やり直せば、ボートはローラーで安全に誘導されます。

危険

手がすべてウインチハンドルを放してしまっても、そのままにすること。
ウインチを止めようとは絶対にしないこと。事故の原因となります。

ボートをあげるとき

ボートをあげるときは傾斜路の前で、ボートをあげるのに必要な準備を完了しておきましょう。傾斜路がこみあっているときなどその分時間が短縮され、ほかの人にも迷惑をかけないためのマナーです。

- ① エンジンかドライブユニットをチルトアップして、ホイールベアリングやブレーキを水に浸さないようにします。ボートをおろすときと同様にします。
- ② トレーラーは充分に水につけます。トレーラータイヤが半分浸かるくらいまでトレーラーを水につけます（図参照）充分水につけないと一か所に重量がかかりすぎてしまい、トレーラー破損の原因となることがあります。トレーラーを深く水につけすぎるとローラーの自動調節が正しく機能しないので、注意してください。
- ③ ウィンチのロックを外し、ボートのハウアイにかかる程の長さまでウィンチストラップを解きます。安全確保のため、最低でもウィンチドラム3巻分のウィンチストラップを残しておきます。絶対に全部解いてしまわないでください。
- ④ ボートにウィンチストラップを接続したら、巻き始めます。EZローダー製のローラータイプのトレーラーはボートとトレーラーが真一直線になります。自動調節のローラーがボートをトレーラーの中心にあわせ正しい角度に直してくれるのでボートとウィンチを締めて巻き始めてください。強風やうねりはローラーの自動調節に影響を及ぼすことがありますので、充分注意してください。
- ⑤ セフティチェーンを接続したら、駐車場に移動します。
- ⑥ 駐車場でボートトレーラーを固定しワイヤーハーネス等の接続を行ってから出発します。





WARNING

ワインチストラップを巻き始める前にワインチを必ずロックすること

ボートの上げ下ろし方法

* バンクトレーラー *

ボートをおろすとき

- ① ボートが浮かぶ程度の深さまでバックしてトレーラーを傾斜路に下ろします。※バンクはローラーよりも大きな摩擦が生じるのでできるだけ水中まで下ろします。
- ② ボートが浮いてからの取り扱い用に係留ロープを結びます。
- ③ バウストップ・セフティチェーンを外します。
- ④ ウィンチハンドルをしっかりと持ってからワインチロックを外して、ワインチストラップを解いていきます。
※ゆっくりと充分に注意しながら解くこと。
※平均的な角度の傾斜路なら、トレーラーのバンクがボートをうまく水の中へ誘導します。

危険

手がすべてワインチハンドルを放してしまっても、そのままにすること。
ワインチを止めようとは絶対にしないこと。事故の原因となります。

ボートがすぐに動かないようなら、15cm程ワインチストラップを延ばし、ワインチをロックしてからボートを押します。ワインチロックを外してもう一度やり直します。できればトレーラーをもう少し深く入れること。それでも駄目なら、けん引車両を1~2m前進させてバックし直し、後輪が水際に近づいたらブレーキを強く踏むようにドライバーに指示します。これでボートが揺すぶられてトレーラーから離れていきます。

上記手順でもうまくいかない場合は、トレーラー調節が必要です。直ちにトレーラーお買い求め店にお問い合わせください。

ボートをあげるとき

ボートをあげるときは常に傾斜路の前で、ボートをあげるのに必要な準備を完了しておきましょう。傾斜路が混み合っているときなどその分時間が短縮され、ほかの人に迷惑をかけないためのマナーです。

- ①ボートをあげるときは、おろすときほどトレーラーを水の中に入れる必要はありません。バンク後部が水に浸るくらいまでトレーラーをバックさせるのが一番楽な方法です。トレーラーを余り深く水に浸さなければ、トレーラーにボートの長さの1/3~1/2程度のったところで自然にバンク中央に誘導されます。
- ②ワインチのロックを外し、ボートのバウアイにかかる程の長さまでワインチストラップを解きます。
- ③ボートをワインチストラップに結んだらワインチを巻き始めます。ワインチの力だけでなくボートの浮力をを利用して、出来るだけボートをワインチに近づけてから巻き取りを始めます。ワインチだけに頼りすぎると破損の原因となるので注意してください。



ワインチストラップを巻き始める前にワインチを必ずロックすること。

- ④ボートがバウに対してまっすぐになつたらバウストップ・セフティチェーンを接続して、駐車場に移動します。
- ⑤駐車場でボートをトレーラーに固定しワイヤーハーネス等の接続を行ってから出発します。

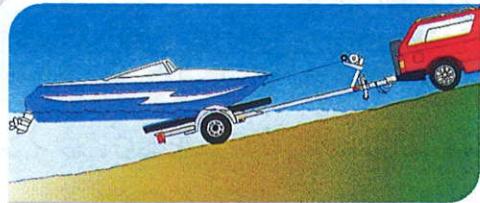
トレーラー上にまっすぐに ボートがのらない一般的な原因

ボートが海上で水平に保たれていない場合や、トレーラーのローラーが各側にて均等にスペースがとられていない場合は以下の手順に従ってください。

調整順序

- ①各側からの対角線上にセットされたローラー部品を今一度はかり直し、トレーラー中央からの各ローラーの長さが同じになるようにします。
- ②それでもボートが左舷側に行くようならばボートをおろし、トレーラー船尾の部分のローラー部品を締めているボルトを緩めます。自転車のハンドル操作するようにして右に各部品を向けます。そのままの状態を維持しながら緩めたボルトを締め直します。ローラー部品の位置を直すことでトレーラー上にボートがまっすぐにのるはずです。ボートが右舷側に動くようならば上記手順の逆の操作を行ってください。

上記手順をふんでも問題が解決しないようなら速やかにトレーラーお買い求め店にお問い合わせください。



!WARNING

トレーラーを余り深く水につけすぎるとボートが浮いたままでローラーに乗らないため、作業が困難になります。

ボートをおろすときのチェックリスト

駐車場で・・・

- モーターサポートを外す
- ロープを外す
- トレーラーのハーネス類をけん引車両から外す
- ボート用のギアを積む。ギアをしまう
- ボート、エンジン、ブローワー、ビレジポンプ、ライト等全システムの点検
- ドレインプラグを忘れずに

傾斜路で・・・

- エンジンルームブローワーがあれば、作動させる
- バウセフティチェーンフックをバウアイから外す
- 順序に従って、ボートを水におろす

メインテナンスと保管

メインテナンス

トレーラーのご使用後に必ず石けんを使って清水でトレーラーを洗ってください。

●これにより海水によるさびを防ぎ、長くきれいにお使いいただけます。

- トレーラーも自動車のようにワックス掛けします。
 - トレーラーを長持ちさせる秘訣は定期的にワックス掛けをすることです。
 - 傷やさびなどはすぐに修理してください。
 - タイヤが冷たいときにタイヤ圧が正しいか点検、確認します
 - 走行前にホイールのラグナットがきつく締められているか点検します。
 - 一年に一度、ハブベアリングを点検します。
 - ワイヤーハーネスに損傷がないか点検します。
- ワイヤーハーネスが垂れ下がっていると損傷の原因となることがあるので、確認してください。
- (ローラートレーラーをお持ちの方)
ローラーとローラー部品のシャフトに定期的にグリスを塗り、ウィンチ部品とギアにも注油します。
 - 古くなり摩耗したケーブルやロープを見つけたら直ちに交換します。

お手入れメモ

バルブソケットに少量のグリスを入れるとシールの密閉度が増し、腐食を防ぎます。部品交換が必要な場合でも簡単に部品交換ができます。

オフシーズンの保管方法

オフシーズンの保管方法は、ボートとトレーラーをガレージ内等の室内に保管します。ビニール等を法定灯火類のまわりにかぶせないこと。圧縮・凝縮の原因となりサビの原因となります。

オフシーズン期のボート保管期間はボートのサビ、刻み目、欠け傷などの修正する良い時期です。ガバナーズトレーラーは小さいサビが出てくることもありますので、そういう場合はガバナーズ・スプレーペンキで修正してください。細かい修理を行っていただくことでトレーラーの外観も性能も長く保つことができます。

推奨のお手入れ方法に従ってください。定期的なお手入れは手間がかかるが、トレーラーを長くトラブルフリーでご愛用いただく為に不可欠です。



WARNING

塩化水素やそのほかの酸を含んでいる船底クリーナーは白、ガバナーズの両方のトレーラーを腐食させる影響が高いので注意してください。

このEZガイドに記載されている図、詳細説明は発行時のメーカーの知識に基づき、構成されています。このEZガイドは予告なしに変更、追加、削除等の変更が加えられることがあります。

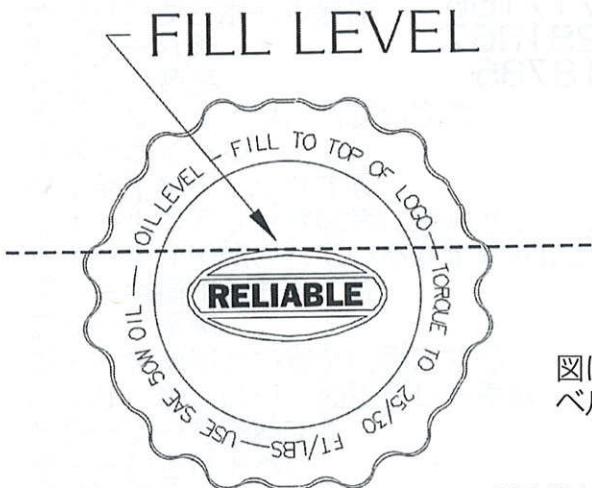
U.S. パテント	No.4210235
U.S. パテント	No.3756439
U.S. パテント	No.4278388
U.S. パテント	No.4350634
U.S. パテント	No.4592694
U.S. パテント	No.4196502
U.S. パテント	No.4611948
U.S. パテント	No.4717165
U.S. パテント	No.4281367
カナダパテント	No.718785



WARNING

ポートトレーラーの車輪は、水の中に入るため、定期的にオイルバスハブのオイルレベルとオイルの状態を確認することが重要です。ハブは、適切なベアリング保護のため、点検窓で示されるレベルまでオイルで満たされなければなりません。

- ★分解した場合には、新しいOリングをご使用ください。
- ★フィッティングボルトはシール剤塗布後、締めて下さい。



オイルバスハブ潤滑システムのオイル交換は、ハブについている六角ネジを外すことで、排出・給油することができます。

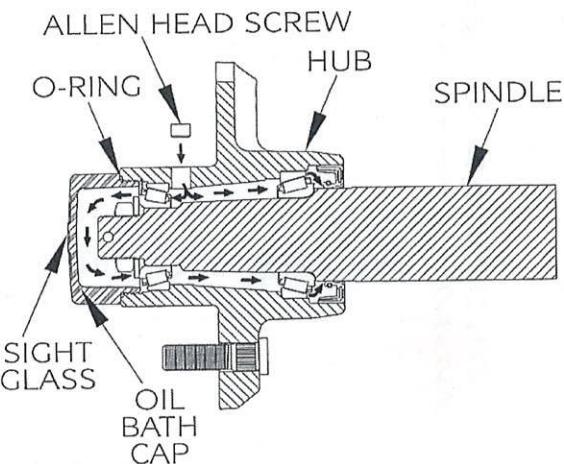
(六角レンチのサイズは3/16インチです。)

オイルが乳白色になっていると、ハブに水が浸入した可能性がありますので、オイルを排出し、オイルを交換してください。必要に応じて、ハブシールの点検とオイルバスハブキャップOリングの点検を行ってください。

指定オイル

**SAE50W又は
SAE90W
ギアオイルを
使用ください。**

図に示すようにオイルを適正レベルまで給油してください。



有限会社 ワンズオートクラブ
〒329-4411
栃木県栃木市大平町横堀 957-2



0282-25-0664

Fax 0282-25-0673



hide@boat-boat.co.jp